

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課：道路局 国道・技術課

担当課長名： 西川 昌宏

関係する地方公共団体等の意見

対応方針(原案)のとおり、事業の継続について異存ありません。

なお、今後の事業の実施にあたっては、以下の内容についてご配慮願います。

- ・中部縦貫自動車道は、北陸と関東を最短距離で結ぶ高規格道路であり、当県をはじめ中部内陸地域の一体的な発展を図るうえで極めて重要な役割を果たす道路です。
- ・高山清見道路及び未事業化区間を含む高山東道路の早期開通に向け、着実な事業の推進をお願いします。
- ・事業費については、最新技術の活用などによる徹底したコスト縮減をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・高山清見道路は、休日交通量が経年的に増加傾向で主に距離の長い交通が利用している。
- ・高山市街地の国道158号は主要渋滞箇所が3箇所存在し、観光期には慢性的な渋滞が発生している。
- ・高齢化社会の進展により、救急搬送人員が増加している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は約62%、用地取得率は100%。(令和7年3月末時点)
- ・飛騨清見IC～高山西IC間(延長8.7km)は、平成16年度に暫定2車線供用済み。
- ・高山西IC～高山IC間(延長6.5km)は、平成19年度に暫定2車線供用済み。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・高山IC～丹生川IIC(仮称)間(延長9.5km)について、早期暫定2車線供用を目指し、橋梁上部工やトンネル工等の工事を推進する。
- ・坊方地区では、切土法面の施工中にクラック等の変状が発生したため、応急対策として押え盛土を実施した上で、有識者を交えて恒久対策工法の検討を行っている。

施設の構造や工法の変更等

- ・残土受入地の変更を行い、運搬費の削減を行うことで、コスト縮減を図っている。
- ・BIM/CIMの活用を行い、施工時の干渉チェックや品質管理情報を付与することで維持管理にも活用し、事業全体の円滑化・効率化を図っている。
- ・今後も、技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)

※B/Cの値は、松本JCT～飛騨清見ICを対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。